

近畿国立病院薬剤師会

会誌



Vol.13

2008年2月

目 次

ページ

近畿国立病院薬剤師会会長就任のご挨拶・・・・・・・・・・ 2

近畿国立病院薬剤師会会長 小原 延章

提言（薬剤部科長）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3

～協調性とチームワーク～

宇多野病院 薬剤科長 三原 正和

薬剤科紹介 姫路医療センター・・・・・・・・・・・・ 4

姫路医療センター 小西 大輔

平成20年度 近畿国立病院薬剤師会 総会報告・・・・・・・・ 6

舞鶴医療センター 副薬剤科長 堀内 保直

編集後記・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 9

ご挨拶 ～会長に就任して～

近畿国立病院薬剤師会会長

近畿国立病院薬剤部科長協議会会長

小原 延章（京都医療センター）

平成16年4月に国立病院機構として独立行政法人化されるまで、約50年という永きにわたり運営されて参りました「近畿国立病院・療養所並びに国立循環器病センター薬学集談会」と「近畿国立病院薬剤部科長協議会」を統合一体化した組織として「近畿国立病院薬剤師会」に生まれ変わり、早や4年が過ぎました。

この度、2期4年間務めてこられました前川前会長の後任として、近畿国立病院薬剤師会と近畿国立病院薬剤部科長協議会の両会長を引き受けることとなり、責任の重さをひしひしと感じるとともに身の引き締まる思いであります。

すべての会員の方々がひとつの組織として、最初の2年は新たな風土の中で土地を耕し、豊穡な土地を作る時期（基盤整備）、次の2年間は、種をまいて水をやり開花・結実させる時期（機能充実期）と位置付け、活動を行って参りました。そして、5年目が始まりました。この4年間で作り上げた大地に草木、花を繁盛させ、また新たなる発展、出発の年でもあります。会員一人一人のやる気と力を薬剤師会に結集し、この組織を発展させ活性化してゆけば、道は開けます。会員が一丸となって「蕾から花へそして実のあるものとするため」日々活動して行こうではありませんか。

20年度診療報酬改定にかかる薬剤業務の積極的な取り組み、薬学教育6年制に向けた研修受け入れ体制の整備、専門薬剤師の養成、さらに医療安全への貢献など、我々の成すべき課題は山積しています。

全会員で組織された委員会（教育研修、臨床業務、業務検討）および各地区会を大いに活性化させ、「今、何をなすべきか、将来のために何ができるか」について立ち止まることなく考え、積極的に意見を出し合い、実践していくことが肝要です。目指すべき目標を明確にし、「やるべき時に、やるべきことをやる」の心意気を胸に刻みつつ、進むべき方向に邁進して行きましょう。

「新しい分野への挑戦」、「チーム医療での役割」、「医療安全への貢献」など、病院薬剤師のあるべき業務と役割を前向きに捉え、実践して行くことが、今求められています。

「存在感のある、活力に満ちた薬剤師会」として、ますます発展し誰からも認知・評価されるよう、微力ではありますが、常に広い視野と洞察力を持ち、攻めの姿勢を忘れず、役割を果たして参りたいと思います。

今後とも、近畿国立病院薬剤師会並びに近畿国立病院薬剤部科長協議会の運営にご理解とご協力をいただき、積極的な参加と実行ある活動をよろしくお願い申し上げます。

提 言

・・・協調性とチームワーク・・・

宇多野病院 三原 正和

一昨年京都で開催された第60回国立病院総合医学会でご講演をいただいた東京大学名誉教授の養老孟司先生が「日本人はある時期から個人的行動を好むようになり、集団で動くより気のあった人たちと一緒に行動した方がいいと考えるようになった」と言われています。また、「今の人には干渉を非常に嫌う」とも言われています。これは社会において核家族化が進み、共同体が無くなり、コミュニティが崩壊している現実を表していると思います。私も全く同感で、我々の職場においても協調性やチームワークが欠落してきたのではないかと危惧しています。

かつて我々の業務は外来調剤に追われ多忙であったが、みんなで協力して外来調剤を早く終えようと努力するなどチームワークは取れていました。しかしながら、最近では業務が外来から入院へシフトし病棟業務に励むあまり個人プレーに走り、自分が薬剤科の代表であるかのような言動を取る人が出現してきています。また、報告・連絡・相談いわゆる「ホウレンソウ」が守れていない人もいます。

古い話なので20代～30代の先生方はご存じないかも知れませんが、昨年かろうじてリーグ優勝を決めた巨人のV9時代を。当時は監督が川上哲治、スタープレイヤーいやスーパースターとして長嶋茂雄、王貞治がいて日本シリーズ9連覇を達成しました。これは長嶋や王の力だけで達成できた訳ではなく、守備やバントで貢献した土井、黒江、盗塁で貢献した「赤い手袋」柴田、「悪太郎」と言われた不動のエース堀内、それから森、高田、末次などの選手が川上監督の指揮下でチームプレーを優先しつつ、選手個々が自分の力を発揮した結果達成できた大偉業（阪神ファンやアンチ巨人軍の人には不愉快かも知れませんが）であり、いかにチームプレーが重要であることを示唆していると思います。

このチームワークの必要性は我々の業務においても言えるのではないのでしょうか。専門薬剤師、認定薬剤師といったスタープレイヤーが徐々に増加してきていますが、個々の薬剤師がバラバラに活動しては組織として成り立たず、大きな成果は得られません。個人の能力を発揮しつつ、薬剤科長以下すべての薬剤師が協調し合って頑張っていくからこそ個人目標が達成され、部門目標が達成される。その結果、病院目標が達成されることになるのではないのでしょうか。

同様のことは近畿国立病院薬剤師会の活動においても言えると思います。小原延章会長以下すべての薬剤師が協力し合って積極的に活動すれば、薬剤師会が益々発展していくものと信じています。

最近の医療の世界では「モンスター・ペイシエント」の出現、「萎縮医療」、受け入れ拒否の結果「たらい回し」といろいろな問題が起こっています。こういう環境下で更なるチーム医療の充実が望まれており、我々薬剤師も協調性とチームワークを発揮してチーム医療の実践、病院経営への参画を果たしていこうではありませんか。

薬剤科紹介

独立行政法人国立病院機構 姫路医療センター

姫路医療センター 小西 大輔

《環境》

姫路医療センターは、播磨臨海工業地帯の中心である姫路市のほぼ中心、世界遺産指定の国宝姫路城の旧城郭の一角に位置し、周辺は国の特別史跡に指定されており、公園、美術館、歴史博物館、図書館等文教施設に隣接した閑静な環境にあります。交通網も山陽・山陰道の要として大阪、岡山まで1時間と交通至便な位置にあります。



《概要》

通知定床 430 床、外来患者数 650 人の中核病院であり、附属施設として看護学校、養護学校を設けています。当院は、がん、循環器病、成育医療（小児、産科婦人科疾患）、骨・運動器疾患を専門的に行う施設として指定されており、この分野の医療を重点的に行なうとともに喘息をはじめとする呼吸器疾患での評価も高く、肺癌手術件数は全国トップクラスを誇っています。また、エイズ拠点病院、地域がん診療連携拠点病院として指定を受け、その他救急医療体制の充実・強化等、地域医療機関との連携強化に取り組み、患者満足度調査でも常に上位の結果を得ており、患者サービスに根ざした医療の向上に努めています。



《薬剤科》

スタッフは科長、副科長、主任 4 名、常勤薬剤師 5 名、非常勤薬剤助手 1 名の計 12 名です（非常勤薬剤師 2 名欠員）。



平成 16 年、施設の新築移転とともにオーダーリングシステムを稼働させ、最新の機器こそありませんが、調剤室をはじめとする薬剤科レイアウトは機能的にデザインされています。調剤管理システムは株式会社ユヤマ製のユニコム X により構築し、処方箋・薬袋作成、調剤過誤の防止、相互作用のチェック等、調剤の支援に寄与しています。注射剤についても外来、入院ともオーダーリングにて処理し、入院注射については当日開始分から翌日開始の処方を 4 日先までの使用分を取り込み、

交付する事で、予定分の医薬品の確保、当日分の不足を減らし、医薬品の適正在庫管理に努めています。システム更新を間近に控え電子カルテの導入を見据えた調剤業務、薬剤管理指導業務、医薬品情報管理業務などシステムの仕様を目下、検討中です。



外来業務においては服薬指導室で点眼指導、吸入指導、抗H I V薬服薬指導を実施しており、患者さまの薬剤に対する理解、手技の向上に努めるとともに有効に安全にご使用いただけるよう心がけているところです。お城がすぐ横にあるため、病院の周辺は調剤薬局の数が少ないことや、特に小児科においては専門的治療のため、院内処方発行の傾向が強く、院外処方箋発行は80%を下回る低迷ぶりですが、各診療科に院外処方箋発行の促進を訴えとともに定期的に市薬剤師会との会合を持ち、情報交換を密に行うことで処方率の改善に奮闘し

ています。

一方、無菌調製に関しては、地域がん診療連携拠点病院であることから多数がん患者の受診があり、平成18年8月より、外来化学療法室が設置されたのを機に薬剤科では外来化学療法室に隣接した部屋へ安全キャビネットを設置し、化学療法レジメンの管理、無菌調製、投与までが円滑に実施されています。また、患者さまの希望があると、外来化学療法室の薬剤管理指導を実施し、より安全かつ質の高い化学療法を提供しています。抗癌剤無菌調製件数は300件/月で増加傾向であり、増加に伴う人員配置、調製時の薬剤曝露等の安全面等を今後の課題としています。



病棟業務は各病棟の医薬品管理、持参薬の確認、薬剤管理指導、医薬品情報提供など、業務を効率化することで時間を有効に使いながら指導件数の増加、内容の充実、また、評価指標となる安全性報告、プレアボイド報告にも力を入れて科員一同協力し合い取り組んでいます。チーム医療としては、ICT、NST、疼痛緩和ケア、褥瘡委員会に参画し、カンファレンス、ラウンドで積極的に活躍しています。他に地域医療連携では、院内セミナーである呼吸器教室・糖尿病教室、地域交流では播磨喘息の会へ参加・講演など行っており、専門性の知識、新しい情報の習得等スキルアップに励んでいます。

(次回は大阪南医療センターです)

平成20年度 近畿国立病院薬剤師会 総会報告

舞鶴医療センター 堀内 保直

平成20年度近畿国立病院薬剤師会総会が平成20年1月19日(土)KKRホテル大阪にて開催された。

14時40分、小森副会長の開会の辞により総会が開始となり、前川会長から挨拶、19年度の活動報告があり、引き続いて中多薬事専門職より挨拶を頂いた。

議長には近畿中央胸部疾患センター砂金副薬剤科長が選出され、19年度事業報告、会計報告、会計監査報告があり、全て承認された。

今年度は会長の任期満了に伴う改選となったため、新会長の挨拶があり、続いて20年度事業計画案、予算案等について審議され全て承認された。最後に小森副会長の閉会の辞により無事、総会が終了した。

日時：平成20年1月19日(土)

場所：KKRホテル大阪

担当施設：大阪南医療センター

出席者数：出席者132名、委任者77名

会則第12条に従い、会員の過半数出席により総会が成立

司会：小森副会長(刀根山病院 薬剤科長)

開会の辞：小森副会長

議長：砂金(近畿中央胸部疾患センター 副薬剤科長)

閉会の辞：小森副会長

報告および審議事項

I. 報告事項

(1) 平成19年度事業報告

①総務

平成19年度年間報告について栗原総務担当理事(大阪医療センター 副薬剤科長)より報告があった。

②広報

広報担当会議、担当任務の分担、名簿・緊急連絡網の作成・改訂、ホームページ、会誌について田伏広報担当理事(南和歌山医療センター 薬剤科長)より報告があった。

③地区会報告

・京都北部・福井地区 代表 舞鶴医療センター 堀内副薬剤科長

- ・京都南部・滋賀地区 代表 南京都病院 岩重副薬剤科長
- ・兵庫南部地区 代表 姫路医療センター 政道副薬剤科長
- ・大阪北部・兵庫東部地区 代表 刀根山病院 山崎副薬剤科長
- ・大阪南部地区 代表 大阪南医療センター 覺野主任薬剤師
- ・奈良地区 代表 奈良医療センター 山内副薬剤科長
- ・和歌山地区 代表 南和歌山医療センター 老田副薬剤科長

④委員会のあり方に関するプロジェクト会議

中間報告として第一回～第三回の会議について本田（大阪医療センター 副薬剤科長）より報告があった。

⑤近畿国立病院薬剤部科長協議会

平成19年度事業について前川会長（大阪医療センター 薬剤科長）より中間報告があった。

(2) 平成19年度会計報告について北村経理担当理事（滋賀病院 薬剤科長）より報告があった。

(3) 平成19年12月27日に平成19年度会計監査が実施され新田監査役（近畿中央胸部疾患センター 薬剤科長）より適正かつ正確であるとの報告がなされた。

以上について審議の結果、賛成多数で承認された。

II. 新会長挨拶

新会長に選出された小原京都医療センター薬剤科長より就任の挨拶があった。

III. 審議事項

(1) 役員紹介

任期満了に伴う役員改選があったため、小原会長より新役員の紹介があった。

(2) 監査役選出

監査役の任期満了に伴い、三原宇多野病院薬剤科長、濱和歌山病院薬剤科長が推薦され賛成多数で信任された。

(3) 平成20年度事業計画

①総務

平成20年度事業年間計画について栗原総務担当理事より説明があった。

②広報

名簿・緊急連絡網、ホームページ、会誌について山崎広報担当理事より説明があった。

③各委員会

平成20年度の事業年間計画について教育研修委員会は和田委員長（兵庫青野原

病院 薬剤科長) より、臨床業務委員会は上西 (滋賀病院 副薬剤科長) より、業務検討委員会は北村理事よりそれぞれ説明があった。

(4) 平成20年度予算案について本田経理担当理事より説明があった。

以上について審議の結果、賛成多数で承認された。

編集後記

◆今年はや暖冬だった昨年ととうってかわり、大阪でも久しぶりに一面の雪景色が見られた厳しい冬でしたが、インフルエンザに罹ることなく平穏に乗り切られたでしょうか。今年はや診療報酬改定の年にあたり、今回は薬価改定だけでなく薬剤科の業務に関する内容も多く見られます。皆さんこれから忙しくなってくると思われませんが体調に気をつけて花粉症にも負けず元気に過ごされることを願っています。今年最初の会誌をお届けしますが、今回から編集担当が変更になりました。これからも今まで通りご愛読下さい。 (Y・H)

近畿国立病院薬剤師会会誌

第十三号 平成20年2月発行

発行元 近畿国立病院薬剤師会事務局

京都市伏見区深草向畑町 1-1

(独立行政法人国立病院機構京都医療センター薬剤科内)

発行人 会長 小原 延章(京都医療)

編集 広報担当理事 山崎 邦夫(刀根山)

広報委員 堀内 保直(舞鶴医療) 石塚 正行(神戸医療)

山内 一恭(奈良医療) 廣畑 和弘(近畿中央)

本田 富得(京都医療) 宮部 貴識(松籟荘)

矢倉 裕輝(大阪医療) 中西 彩子(大阪南医療)

近畿国立病院薬剤師会ホームページ <http://www.kinki-snhp.jp/>

